

第23回奄美を描く美術展：審査概要 (審査員長略歴, 総評, 内訳等)

審査員長 土方 明司(ひじかた めいじ) 氏

1960年東京生まれ。1983年学習院大学文学部哲学科(美学・美術史系)卒業。
同年、練馬区立美術館準備室配属。開館後、同館学芸係長、平塚市美術館館長代理を経て、2021年より川崎市岡本太郎美術館館長に就任。これまでに公立美術館で数多くの日本近現代美術に関する展覧会を手掛ける。武蔵野美術大学客員教授。他に、東北芸術工科大学、学習院大学、女子美術大学の講師を務める。国際美術評論家連盟(AICA)会員。「日展」外部審査員、文部科学省委嘱による「芸術選奨」審議委員、複数の公立美術館で運営委員、作品収集委員を務める。展覧会企画、著書、受賞歴多数。

審査員長総評

全体的に非常にレベルが高い。日本画、洋画、水彩、工芸など手法が多様で、それぞれの作者が見て感じた奄美を表現している。百人いれば百通りの世界観がある。入賞・入選した作品は、作者の個性が発揮され、鑑賞者に訴える力のあるものが揃った。納得のいく審査ができた。

この「奄美を描く美術展」は、技術・テクニックの熟練を求めているというよりは、作者が独自の奄美を見つけ、それを作品化することを求めていると思う。そうして生み出された作品によって、観た人の新たな気づきに結びつく。

ぜひこれからも、そういった作品が集う展覧会であってほしい。

内訳	出品点数	117点	入賞	10点
	出品者数	93人	入選	50点
	最年少	15歳	合計	60点
	最年長	87歳		
	初出品	26人		
年代別	10代…2人 20代…4人 30代…3人 40代…13人			
	50代…13人 60代…16人 70代…30人 80代…12人			
住所別	島内(奄美大島)		38人	
	群島		6人	
	奄美群島以外の鹿児島県		7人	
	県外		42人	
種類別	油彩		37点	
	アクリル, 水彩		51点	
	日本画, 墨		13点	
	工芸		5点	
	その他		11点	
	(ミクストメディア・火山灰・鉛筆・クレヨン)			